

があります。このクラスでは、2年生と3年生、4年生と5年生はそれぞれ一つのクラスに編成されています。クラスの3分の2がアメリカ出身の生徒で、3分の1が新しくアメリカにきた生徒です。新しく来た子は、近隣の学区からも通っています。この子たちは、1年間だけこのクラスにいて、英語以外の言葉も使って指導を受け、その後本来の学校に帰ることになります。生徒の国籍を聞いてみると、アルメニア、イスラエル、イラン、イラク、パレスチナ、日本、ウクライナ、ジャマイカ、エジプト、その他のアフリカの国々など実に多彩です。だれもが、自分の出身の国に誇りを持っている様子が印象的でした。日本から来たばかりの生徒には、日本出身の先生がいることがとても心強いようでした。このクラスは14年前に始まったそうですが、今の時代にはさらに必要とされる教育であるような気がしました。その成果は、高い評価を得ているのですが、人件費等の経費がかかることもあり、近隣のほかの市にまでは広がっていないとのことでした。

### ◆ 日本人のための教育施設

もちろん、全日制日本人学校、補習校、学習塾、国際学校などにもお邪魔します。それぞれの地域で、それぞれの特徴を出して懸命に教育活動をしておられる関係者の方々の様子には頭が下がると同時に、私たちがたいへん勇気づけられる思いがします。

アメリカの中でも、住んでいる都市や地域によって日本人の子どもたちの生活や学習の状況はずいぶんちがいます。「アメリカでは」とひとくくりで考えることがとても無理なことだということが、実感としてわかります。場所によって、生徒や家族の感じ方や、学校に対する考え方に微妙なちがいがあるのもおもしろいことです。

### ◆ なぜ海外入試

啓明学園で海外入試をする第一の理由は、受験生とご家族の帰国の準備に便宜を図ることです。啓明に編入を希望する帰国生の場合、例えば、帰国してから住まいを決めなければならないという家族が少なくありません。子どもの学校が決まれば家探しも始められるということで、帰国前に学校が決まれば好都合です。帰国後の試験の場合は、合格してから半年以内に入学することとなっていますが、海外入試ではその期間を1年間として、無理なく準備ができるようにしています。



Dooley School にて

また、いわば、受験生のホームグラウンドで、よいコンディションで受験することができるという利点もあります。啓明は随時編入ができるので、帰国してすぐに試験を受けることもできます。環境が変わり、引っ越しなどあわただしい中での受験は、本人にとっても家族にとっても楽ではありません。啓明の試験科目は、英語・日本語の作文と面接ですが、長くアメリカで勉強している生徒の場合、英語がしっかりとできていれば、日本語の力が弱くても不合格にはなりません。ですから、特別な受験勉強は必要なく、普段アメリカの学校で発揮している力が、そのまま試験の結果につながるようになります。そんなこともあってか、試験会場でない都市から、長い時間をかけて受験に来る受験生もいます。

試験を課する側から見ると、受験生がアメリカで学習し、生活している様子にふれることができ、現在の学校生活が充実しているかどうかがよく分かります。今の学校の様子を生き生きと話してくれる子どもたちに会うのは楽しいことですし、英語が分からなくて苦勞したころの話も、いっそう身につまされます。何か月か後の帰国に向けて、アドバイスをしたり、励ましの言葉を送ったりして、生徒の不安を和らげ、心の準備をさせることもできます。

啓明学園のほかにも、海外入試を行っている学校があります。帰国が視野に入ってきたら、海外入試で学校を決めて、安心してアメリカ生活の最後を充実させる方法もご検討いただけたらと思います。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校  
国際教育センター  
〒196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15  
電話：042-541-1003  
ホームページ：www.keimei.ac.jp  
Eメール：kokusai\_info@keimei.ac.jp



日本人の子どもへのケアと同時に、現地の人たちにも利益をもたらす、アメリカらしい教育プログラムの紹介です。

また、受入校の立場からの海外入試のねらいと、ご自身が試験官として全米を駆け巡った貴重な感想を述べていただきました。

佐々先生ご自身は、30年以上、海外・帰国子女の指導に直接携わって来られました。それでもなお、「子どもたちをめぐる最新の状況を取材」して、その子ども達の帰国後の指導に役立てる。子ども達を気遣う先生のお気持ちが滲み出ている、うれしい文章でした。感謝!